

北秋田市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）

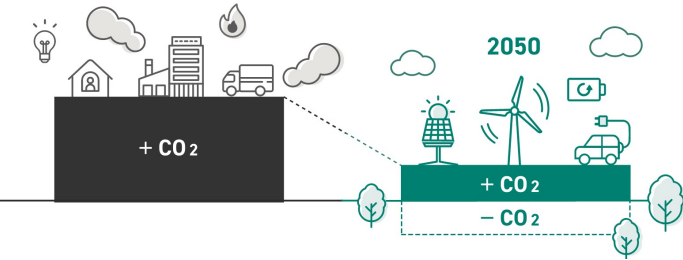
概要版

◆計画策定の趣旨（P1）

市は 2030 年度までに温室効果ガス排出量（以下、排出量）を実質ゼロにすることを目指しており、排出状況を把握し、市民・事業者・市が一体となって更なる取組を推進するため、本計画を策定します。

◆対象とする温室効果ガス（P2）

温室効果ガスの大部分を占める
二酸化炭素とメタンを対象とします。

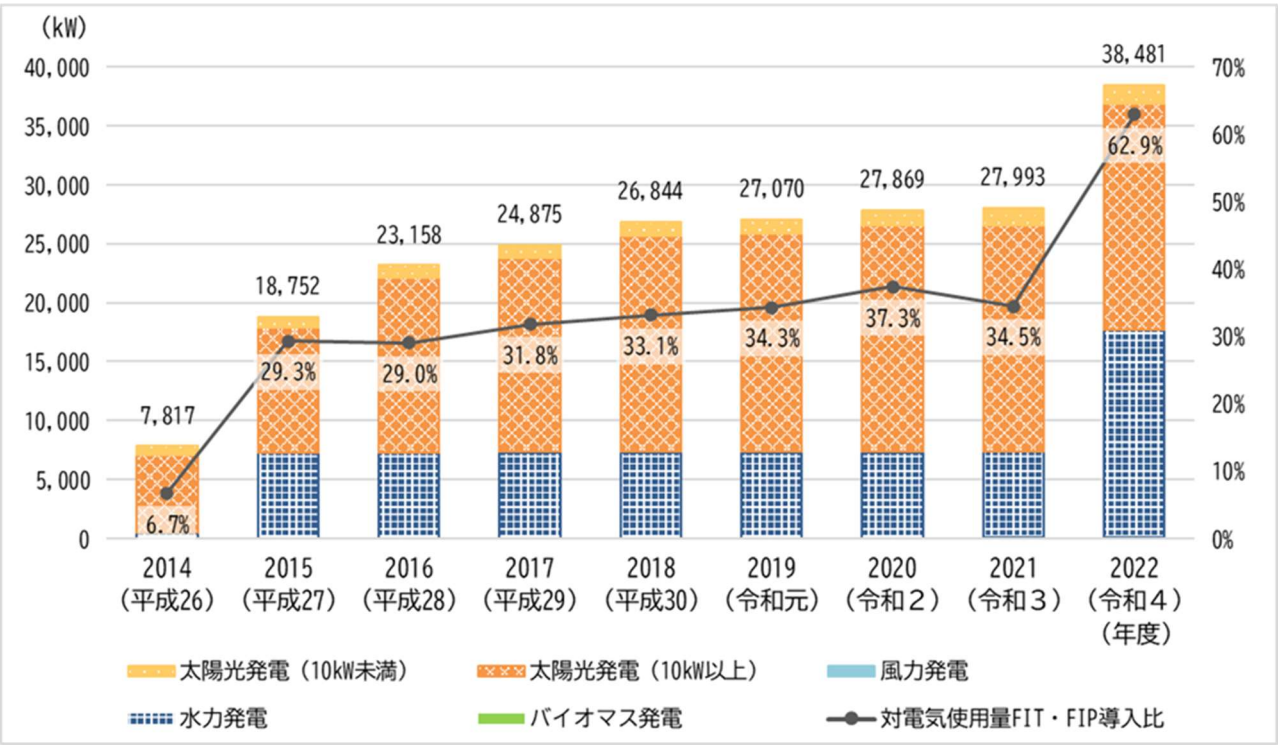


◆計画の期間（P2）

2025（令和 7）年度から 2030（令和 12）年度までの 6 年間とします。

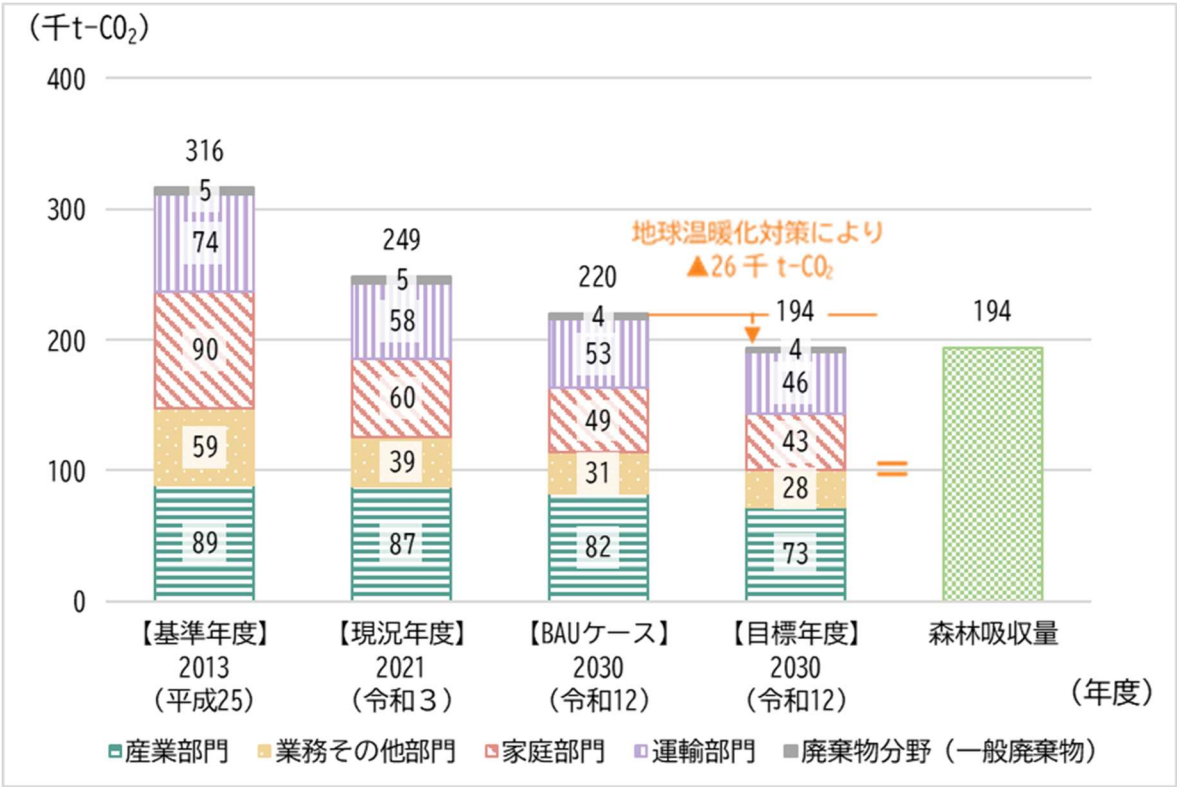
◆再生可能エネルギーの導入状況（P17）

太陽光などの自然の力を利用して得られる再生可能エネルギーは、当市では事業者によるメガソーラー発電がその多くを占めており、2022 年度には森吉山県立自然公園付近で新たな水力発電所が運転を開始しています。本計画では、導入が比較的に見込まれる家庭用の太陽光発電（10kw 未満）に対して目標を設定し、再生可能エネルギーの普及を図ります。また、事業者による大規模な設備投資の際には、地域で発電された電気が地域で消費される「エネルギーの地産地消」に向け、事業者と連携を取りながら地域経済の好循環を目指します。



◆温室効果ガス排出量の状況と温室効果ガス排出量の削減目標（P27）

2021 年度の排出量 249 千 t-CO₂ は、2013 年度の排出量 316 千 t-CO₂ と比較して 67 千 t-CO₂ 減少していますが、BAU ケース（地球温暖化対策を実施しない場合）の 2030 年度の排出量を 220 千 t-CO₂ と算定しました。また、現在の市の森林吸収量を 194 千 t-CO₂ と算定しました。目標とする 2030 年度の温室効果ガス排出量を森林吸収量と相殺して実質ゼロにするには、適切な森林の整備によって森林吸収量を維持しながら、排出量を 194 千 t-CO₂ 以下にする必要があるとともに、追加的な地球温暖化対策によって排出量を 26 千 t-CO₂ 削減することが求められます。



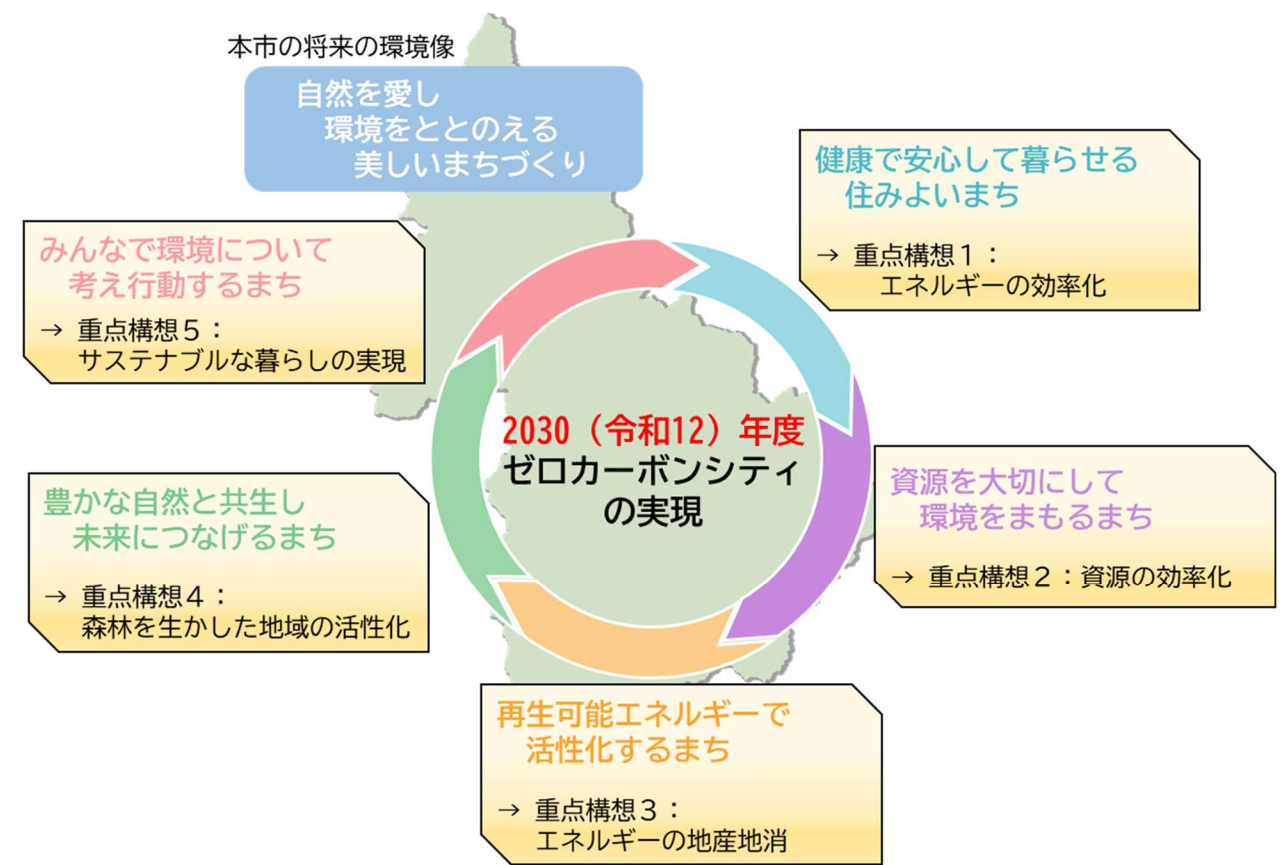
◆部門・分野別の温室効果ガス排出量の削減目標（P28）

温室効果ガスは下記の各部門・分野から構成されており、計画では過去の構成比を考慮して削減目標量を設定しました。市の排出量は年々減少していますが、部門・分野別では産業部門が概ね横ばいで推移しています。また、運輸部門・家庭部門と同様に排出量の大部分を占めており、主体である市民と事業者が積極的に地球温暖化対策に取り組むことが重要です。

部門・分野	基準年度	目標年度	削減目標量（削減率）
廃棄物分野（一般廃棄物）	5 千 t-CO ₂	4 千 t-CO ₂	▲ 1 千 t-CO ₂ (▲27.5%)
運輸部門	74 千 t-CO ₂	46 千 t-CO ₂	▲28 千 t-CO ₂ (▲37.3%)
家庭部門	90 千 t-CO ₂	43 千 t-CO ₂	▲47 千 t-CO ₂ (▲51.7%)
業務その他部門	59 千 t-CO ₂	28 千 t-CO ₂	▲31 千 t-CO ₂ (▲52.6%)
産業部門	89 千 t-CO ₂	73 千 t-CO ₂	▲16 千 t-CO ₂ (▲18.2%)
合計	316 千 t-CO ₂	194 千 t-CO ₂	▲122 千 t-CO ₂ (▲38.7%)

◆計画の将来像（P29、P31～P53）

計画では、2030（令和12）年度「ゼロカーボンシティ」の実現と、市の環境基本計画で掲げる将来の環境像「自然を愛し 環境をととのえる 美しいまちづくり」の実現を目指して、下記5つの重点構想を設定し、その重点構想ごとの施策に市民・事業者・市のそれぞれが主体となって取り組みます。



重点構想1：エネルギーの効率化 (1)省エネルギー型ライフスタイルへの転換 (2)エネルギー使用状況の「見える化」 (3)省エネルギー設備の導入や建物の基本性能の向上
重点構想2：資源の効率化 (1)廃棄物の減量化 (2)3Rによる資源化の推進
重点構想3：エネルギーの地産地消 (1)地域と親和性の高い再生可能エネルギーの活用 (2)分散型エネルギーシステムによる地域のレジリエンス向上
重点構想4：森林を活かした地域の活性化 (1)二酸化炭素吸収源対策 (2)市産材や間伐材の利活用 (3)二酸化炭素吸収源のクレジット化
重点構想5：持続可能な暮らしの実現 (1)情報発信及び環境・エネルギー教育等の促進 (2)戦略的な行動変容の促進 (3)市民や関係自治体と一体となった推進体制の構築 (4)適応策の実施

◆家庭でできる地球温暖化対策（P33、P37）

家庭部門の排出量を減らす取組は、光熱費の節約にも効果があります。下の取組例以外にも様々な取組がありますので、できるものから取り組んでみましょう。

○節電・節水

取組例	二酸化炭素削減効果	光熱費節約効果
冷蔵庫の設定温度を弱める	年間約 32kg-CO ₂	年間約 1,900 円
家族と一部屋で過ごす	年間約 82kg-CO ₂	年間約 4,900 円
冷暖房の設定温度を控えめにする	年間約 98kg-CO ₂	年間約 5,900 円

○自動車の利用

取組例	二酸化炭素削減効果	光熱費節約効果
カーエアコンの温度と風量を調整する	年間約 48kg-CO ₂	年間約 3,100 円
車の利用を半分にする	年間約 54kg-CO ₂	年間約 3,500 円
エコドライブを心がける	年間約 64kg-CO ₂	年間約 4,200 円

○省エネルギー型への買換

取組例	二酸化炭素削減効果	光熱費節約効果
エアコンを省エネルギー型に買い換える	年間約 46kg-CO ₂	年間約 2,700 円
冷蔵庫を省エネルギー型に買い換える	年間約 108kg-CO ₂	年間約 6,300 円
蛍光灯を LED に買い換える	年間約 111kg-CO ₂	年間約 6,500 円
テレビを省エネルギー型に買い換える	年間約 179kg-CO ₂	年間約 10,500 円
節水型のトイレに交換する	年間約 50kg-CO ₂	年間約 14,900 円
燃費の良い車に買い換える	年間約 435kg-CO ₂	年間約 28,200 円

◆北秋田ごみ分別アプリ（P39）

ごみの出し方や分別方法などの情報を、いつでも、どこでも確認できる無料のスマートフォン向けごみ分別アプリを配信しています。
スマートフォンのアプリストアで「北秋田ごみ分別アプリ」と検索してダウンロードするか、右の QR コードをスマートフォンで読み取ってダウンロードしてください。



▲Android 版



▲iphone 版

◆新しく豊かな暮らしを創るデコ活（P51）

デコ活とは、「脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動」の愛称です。ゼロカーボンシティの実現には、社会の仕組みを大きく変えることも必要ですが、一人ひとりの生活の中でもできることを積み重ねることも大切です。

デコ活アクション まずはここから！	
デ	電気も省エネ 断熱住宅
コ	こだわる楽しさ エコグッズ
カ	感謝の心 食べ残しゼロ
ツ	つながるオフィス テレワーク



▲デコ活アクション

編集・発行 北秋田市市民生活部生活環境課
〒018-3392 秋田県北秋田市花園町 19 番 1
TEL 0186-62-1110 FAX 0186-62-2880